

17日 土曜

創世記

24:54 このしもべと、ともにいた従者たちは、食べたり飲んだりして、そこに泊まった。朝になって彼らが起きると、そのしもべは「私の主人のところへ帰らせてください」と言った。

24:55 彼女の兄と母は、「娘をしばらく、十日間ほど私たちのもとにとどまらせて、その後で行かせるようにしたいのですが」と言った。

24:56 しもべは彼らに、「私が遅れないようにしてください。【主】が私の旅を成功させてくださったのですから。主人のところへ行けるように、私を帰らせてください」と言った。

24:57 彼らは答えた。「娘を呼び寄せて、娘の言うことを聞いてみましょう。」

24:58 彼らはリベカを呼び寄せて、「この人と一緒に行くか」と尋ねた。すると彼女は「はい、行きます」と答えた。

24:59 そこで彼らは、妹リベカとその乳母を、アブラハムのしもべとその従者たちと一緒に送り出した。

24:60 彼らはリベカを祝福して言った。「われらの妹よ、あなたは幾千万にも増えるように。あなたの子孫は敵の門を勝ち取るようにな。」

24:61 リベカとその侍女たちは立ち上がり、らくだに乗って、その人の後について行った。こうして、しもべはリベカを連れ帰った。

24:62 一方イサクは、ベエル・ラハイ・ロイ地方から帰って来ていた。彼はネゲブの地に住んでいたのであった。

24:63 イサクは夕暮れ近く、野に散歩に出か



Bible Reference
聖書の記述

けた。彼が目を上げて見ると、ちょうど、らくだが近づいて来ていた。

24:64 リベカも目を上げ、イサクを見ると、らくだから降り、

24:65 しもべに尋ねた。「野を歩いて私たちを迎えて来る、の方はどうなたですか。」しもべは答えた。「の方が私の主人です。」そこで、リベカはベールを手に取つて、身をおおった。

24:66 しもべは、自分がしてきたことを残らずイサクに話した。

24:67 イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカを迎えて妻とし、彼女を愛した。イサクは、母の亡き後、慰めを得た。

「食べたり飲んだり」や休みは肉体の命を維持するために必要です。しかしこのしもべが神様の使命を優先したことは大いに教えられます。

リベカからも教えられます。20節にあるように、桶でらくだ10頭分の水を運び、坂道を往復するのは大変ですが、自らそれをしました。また今は主の導きとあれば、前を向いて進もうとします。主に従う人の証しによって、人が決心するという力強い出来事です。こうありたいものです。

また彼女がらくだから降りたのは礼をつくす行為です。新しい環境で自分を「生かそう、認めてもらおう」というよりも、まず謙遜であることは大切です。

イサクも（当然アブラハムも）神のみわざを尊重し、そしておそらく安心して受け入れました。しもべであっても誰であっても、そこに神の証しがあるなら、神様をあがめるゆえに従うべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

